

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2010・2 vol.402

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉



岩手医科大学総合移転整備計画第二次事業新築工事起工式（関連記事 P5）

おもな内容

- 巻頭言／「2010年を迎えて」 学校法人 岩手医科大学 理事長 大堀 勉
- 特 集／当院における新型インフルエンザ（SwH1N1）対策 感染症対策室
- 岩手医科大学総合移転整備計画第二次事業新築工事起工式並びに起工祝賀会を挙げる
- 連 載／当院認定看護師の紹介(8) 手術看護認定看護師 島崎 由希子
- 学内の胸像めぐり

巻 頭 言

2010 年を迎えて

学校法人 岩手医科大学 理事長 大 堀 勉



全職員の皆様、ご家族お揃いで輝かしい新年を迎えられましたことと心よりお慶び申し上げます。昨年も、皆様の絶大なるご理解、ご協力、ご活躍により、大学の順調な発展をみ、新しい年を迎えることができたことはまことに有り難く心より感謝の意を表したいと思えます。年頭にあたり、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りし、本年もさらなるご協力を賜りますようお願い申し上げます。



年々、そして昨年も学内の各部門における順調な発展と、大学総合移転の方も順調な歩みをみておりますが、これひとえに2,300人余の全ての職員一人ひとりのご協力、ご努力の賜であり、まさに「一座建立」そのものであります。重ねて皆様に心より御禮を申し上げます。

皆様ご承知のとおり、地球上の諸所において天変地異あるいは人災などが発生しています。日本国内においても然りで将来何が起こるか予測が付きません。我々の大学においても順調とばかり言うてはおれないと思えます。「油断大敵」どんな危機にも対応できる心構えが必要であると思えます。



大学総合移転の一環として

①7テスラ MRI 研究施設 ②動物実験センターを矢巾地区に、③リニアック、PET/CT を入れる施設を昨年中より建設中で本年9月前後には完成予定となっています。

また、医学部定員増（平成22年4月より125名）に伴い、施設設備の不足が生じ二次事業として急きょ計画され、去る12月に矢巾において起工式が行われ、すでに建設に着手、新幹線からクレーンが数本立っているのが見られます。これは、平成23年2月頃に完成し、4月から使用可能となります。

皆様の一致団結と一層のご理解、ご協力をお願いする次第であります。



岩手医科大学報について

近年、本紙編集委員会委員の方々の情熱で内容が次第に充実してまいりました。現在まで年6回の発行にこぎつけ頑張ってまいりましたが、来る4月からは月1回（年12回）発行する予定となりました。そうなってくると、昔の「医大月報」に発展・変更することになるかもしれません。今後一層の努力を重ねていきたいと思えます。

つきましては職員全員からの投稿を心待ちにしております。300字～400字の短い文章でも結構ですのでどしどし建設的なご意見を賜りますようお願いいたします。

超高磁場 MRI 研究施設の現状と今後

先端医療研究センター

超高磁場 MRI 診断・病態研究部門 教授

佐々木 真理
まこと

超高磁場 MRI 研究施設の発足

滝沢村滝沢字留が森にある先端医療研究センター超高磁場 MRI 研究施設（写真1 施設長：江原茂教授）は、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（ハイテクリサーチセンター整備事業）の助成を受け、当時世界に十数台・国内に数台しか無かった最新鋭超高磁場3テスラ MRI 装置（写真2）の共同利用研究施設として平成11年に発足しました。



写真1 超高磁場 MRI 研究施設（滝沢村）



写真2 3テスラ MRI

現状

開設当初より学内外の多くの先生方が利用され、医学部、歯学部、薬学部、共同研究部門、他大学など延べ32部門約100名の研究者によって年間約600件の検査が行われており、多くの先駆的な成果がもたらされています。中でも、ハイテクリサーチセンタープロジェクト推進委員会による「加齢に伴う神経損傷とその修復に関するプロジェクト」および「脳血管障害とその修復に関するプロジェクト」では、委員長の佐々木和彦教授（平成11～14年度）、佐藤洋一教授（平成15～20年度）の陣頭指揮の元、延べ約70名の臨床系・基礎系研究者によって講座や職種の壁を越えた学際的共同研究が行われ、300編以上の英文論文を発表するなどの顕著な成果を挙げ、高い外部評価を得ました。特に、脳内温度計測法、髄鞘強調画像、容積拡散画像（写真3）、神経メラニン画像（写真4）などの独自の技術を開発し、脳血管障害、脳腫瘍、認知症、精神疾患などの臨床研究に応用することで、3テスラ MRI による画像検査の新たな可能性を世界に向けて発信することができました。

また、ラット、ヒヨコ、ウサギ、イヌなどの動物を用いた研究も積極的に行われ、種々の脳神経・精神疾患の機構解明に繋がる知見が得られています。最近では、高精度灌流画像解析ソフトウェア（写真5）、位相差脳血流代謝解析法、組織内鉄濃度計測法、水分子プローブなど、未来に繋がる要素技術の開発も精力的に行っています。

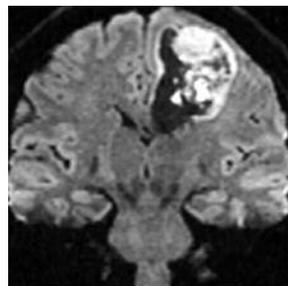


写真3 容積拡散画像
歪みのない高精細画像が得られており、病変や脳構造が明瞭に描出されている。



写真4 神経メラニン画像
脳幹内の青斑核ノルアドレナリン神経細胞が高信号に抽出されている（矢印）。

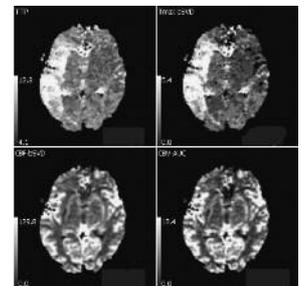


写真5 高精度灌流画像
独自の解析ソフト（PMA）によって種々の高精度脳灌流マップが得られている。

今後の展望

現在、大堀勉理事長・小川彰学長のご英断で、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の助成のもと、国内2台目となる最先端の次世代型超高磁場7テスラ MRI 装置の工事が矢巾キャンパスで着々と進んでおります。7テスラ MRI は従来困難であった超高精細画像や位相機能情報を得ることが可能で、脳神経領域の先端研究の軸は早晚7テスラに移行して行くものと思われます。一方、3テスラ MRI は円熟期を迎え、頭部以外の領域でも高品位な付加価値画像を得られるようになってきました。当施設の装置は前述の助成金を受けて昨年末にバージョンアップし、頭部以外のコイルも充実しましたので、より多くの分野の先生方にご活用いただける環境が整ったのではないかと考えております。今後とも、本学の研究活動に貢献できますようスタッフ一同より努力して参る所存ですので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

特集

当院における 新型インフルエンザ (SwH1N1) 対策

感染症対策室長 (ICD) 櫻井 滋 (監修)
感染症対策室専任薬剤師 (BCICPS) 小野寺 直人 (文責)

新型インフルエンザの発生は、医療関連施設のみならず学校や保育園、社会福祉施設等においても、改めて感染制御の重要性を認識する機会となり、社会的危機としての対応が求められる事態となりました。岩手医科大学附属病院 (以下、当院) では、新型インフルエンザの感染拡大に伴い、従来から組織的に実施してきた季節型インフルエンザ対策に加え、予測される患者さんの増加に対処するため、流行拡大中は「徹底した面会制限」と「有熱者トリアージ」を行うこととしました。今回、岩手医科大学報にて報告する機会を得ましたので、当院における新型インフルエンザ対策の概要について紹介します。

1. 当院における新型インフルエンザ対策の内容と経過

< 第一期：新型インフルエンザ発生に伴う初期対応 (平成21年4月27日～6月1日) >

1	緊急対策会議	基本方針の確認
2	緊急情報の掲示・配布	面会制限と患者スクリーニング
3	職員および学生への注意喚起	罹患時の対応・渡航自粛要請等
4	新型インフルエンザ患者診療手順の提示	サーベイランスと防護具の徹底
5	検体保存フローチャートの作成	国のサーベイランスへの協力
6	個人防護具の配備と着脱手順の提示	職員の健康管理
7	予防薬の配備と投与手順の作成	職員の健康管理
8	新型インフルエンザ説明会の開催	職員への周知

平成21年4月27日、新型インフルエンザの発生に伴い、病院長を座長とする新型インフルエンザ対策会議を開催。当院の基本方針を明確にすると共に、基幹マニュアルに既に準備されていた「**新型インフルエンザ/SARS診療に関する指針**」に基づく対応の実施を病院の決定とした。

※サーベイランス…

感染症の発生状況を調査・集計することにより、感染症の蔓延と予防に役立てるシステム。

< 第二期：今秋の新型インフルエンザ拡大に向けて (平成21年6月2日～9月10日) >

平成21年6月2日、今秋の新型インフルエンザ拡大に向けて、当院の新型インフルエンザ対策について再通知。



マスク・ゴーグル等の PPE (個人防護具) セット



PPE 着脱に関する 動画 (DVD) の作成

※DVD は、VAP チーム (ICT 直轄の呼吸管理関連感染対策チーム) 作成。

1	新型インフルエンザ対応の変更	季節型インフルエンザと同様の対応
2	診療・トリアージ体制の構築	トリアージナースの育成
3	職員用対応パンフレットの作成	流行時の対応、罹患時の勤務制限等
4	患者用 (受診・自宅療養) リーフレットの作成	受診方法等の周知
5	物品、施設設備の整備	パーティション・非接触性体温計
6	職員教育	PPE (個人防護具) の着脱方法等
7	学部と病院の連携	学生、実習生の受け入れ (感染対策)

< 第三期：新型インフルエンザ流行拡大に対する対応（平成21年9月11日～） >

平成21年9月11日、新型インフルエンザの院内感染の拡大を防止する目的で、徹底した面会制限を行うことを決定。方針表明のため、病院長が共同記者会見（リスクコミュニケーション）を行い、患者さんおよび家族、県民への理解を求めた。

1	患者増加時の診療体制の構築	全診療科対応
2	面会制限	厳密な面会制限と病棟での症状チェック
3	有熱者トリアージの開始	有熱者ブースの設置とトリアージナース対応
4	地域連携便り	当院の対策について地域への周知
5	新型インフルエンザワクチン接種	職員の健康管理

※トリアージ…

災害時において、負傷者を重症度、緊急度などによって分類し、治療や搬送の優先順位を決めること。

2. 新型インフルエンザの拡大に伴う徹底した面会制限

平成21年9月12日より、当院に入院中の患者さんを新型インフルエンザから守ることを主目的に、徹底した面会制限を開始しました。新型インフルエンザは、基礎疾患を持つ患者さんや免疫不全患者さんは重症化するとされており、入院患者さんが罹患した場合には生命の危険すら考えられます。

5年以上にわたり当院で実施してきた季節型インフルエンザ対策の経験から、病棟で発生するインフルエンザは面会者からの2次感染が多いことが明らかとなっています。月に8,000人を超える面会者の中には、一定頻度でインフルエンザウイルスが潜在します。これらが患者さんに感染する確率を低減するため、**家族の危篤など特別な理由がない場合には面会を原則的に制限しています**。また、家族が入退院の手続きや着替えを届ける場合でも、予め連絡したうえで主治医等の許可が必要と規定しています。なお、**平成22年1月末現在、院内での2次感染事例は一例も確認されていません**。



3. 外来玄関における有熱者トリアージの実施



外来を受診する有熱者は、インフルエンザの流行拡大に伴い増加する可能性が高いと考えられます。そこで、平成21年9月17日より、**一般患者さんと有熱者を分離するために、有熱者の待機場所を設け、患者間における感染伝播の防止対策を行っています**。

有熱者が来院した場合には、正面玄関に待機している、有熱者を振り分け係のトリアージ担当職員が、有熱者を待機所に誘導します。問診や予備検温によってインフルエンザ様症状が認められた場合には、担当科に事前に連絡の上で誘導し、一般患者さんとの接触を少なくする対応を行っています。現在のところ、10名/日程度の有熱者が訪れており、的確な対応がなされています。

4. インフルエンザ流行の減少に伴う緊急対策の解除について

インフルエンザは5週連続で減少し、岩手県における定点あたり患者数が2週連続で定点あたり患者数10人を下回りました。当院では、このような状況を踏まえ、**1月25日(月)より**インフルエンザ厳戒態勢を見直し、厳密な全館面会制限の解除と面会時のインフルエンザ症状のチェックの簡素化、有熱者待機所の縮小を致しました。今回の130日以上におよぶ対策期間中の患者さん、および関係各位のご協力に、本紙面を借りて心より感謝申し上げます。

5. おわりに

現在、流行している新型インフルエンザへの対策は、本来季節型インフルエンザと同様の対策が有効とされています。一方、ほとんどの人々が免疫を持たないことから発症率は高くなり、爆発的な患者さんの増加が生じうるため、予防策の徹底が望まれています。

今後とも、新型インフルエンザの感染拡大は避けられない状況であり、加えて季節型の流行も予想されます。短期間に患者さんが増加することによる医療や経済面の混乱を避けるとともに、重症化を防ぐ方策を実施することが重要です。特定機能病院の責務を果たすために、当分の間、インフルエンザ対策強化を継続する必要があります。皆様のご協力が不可欠です。今後とも入院患者さんおよび外来受診患者さんの安全を確保するために、全力を尽くしてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

新築工事起工式並びに起工祝賀会を挙げる

平成21年12月16日(水)午前11時から矢巾キャンパス敷地内において、総合移転整備計画第二次新築工事起工式が執り行われ、大堀理事長、小川学長ら本学関係者や、県、矢巾町、工事関係者ら約70名が出席しました。

神職による神事では、大堀理事長による鍬入れや玉串奉奠などが行われ、工事の無事を祈願しました。

また、神事に引き続き、矢巾キャンパス校舎研究棟2階において起工祝賀会を行い、工事の着工を祝いました。

本学では、平成21年4月より医学部入学定員が110名になり、さらに平成22年4月には125名まで増員することから、現状施設では対応が難しくなる施設環境の改善に向け、教育研究環境の整備、学生アメニティーの充実など魅力ある大学創りと優秀な学生確保を目的として、第二次事業に着手しました。

今回の事業は、総事業費約120億円をかけて、医学部・歯学部の基礎部門（4年生まで）を中心とした講義実習棟、研究棟及び共同研究部門を矢巾キャンパス敷地に配置・整備する計画で、平成23年3月の事業完了を目指しています。

本校舎の完成により、平成23年度からは医学部・歯学部の4年生までが矢巾キャンパスで授業を受けることとなり、薬学部を含めた3学部の連携体制がさらに堅固なものになると期待されます。

また、今後予定されている附属病院の移転につつま

しては、矢巾キャンパス北側に位置する移転予定地（矢巾町藤沢地区：18万㎡）の平成22年度市街化編入に向けた取組みを進め、早期取得と移転を目指します。



玉串を捧げ安全を祈願する大堀理事長

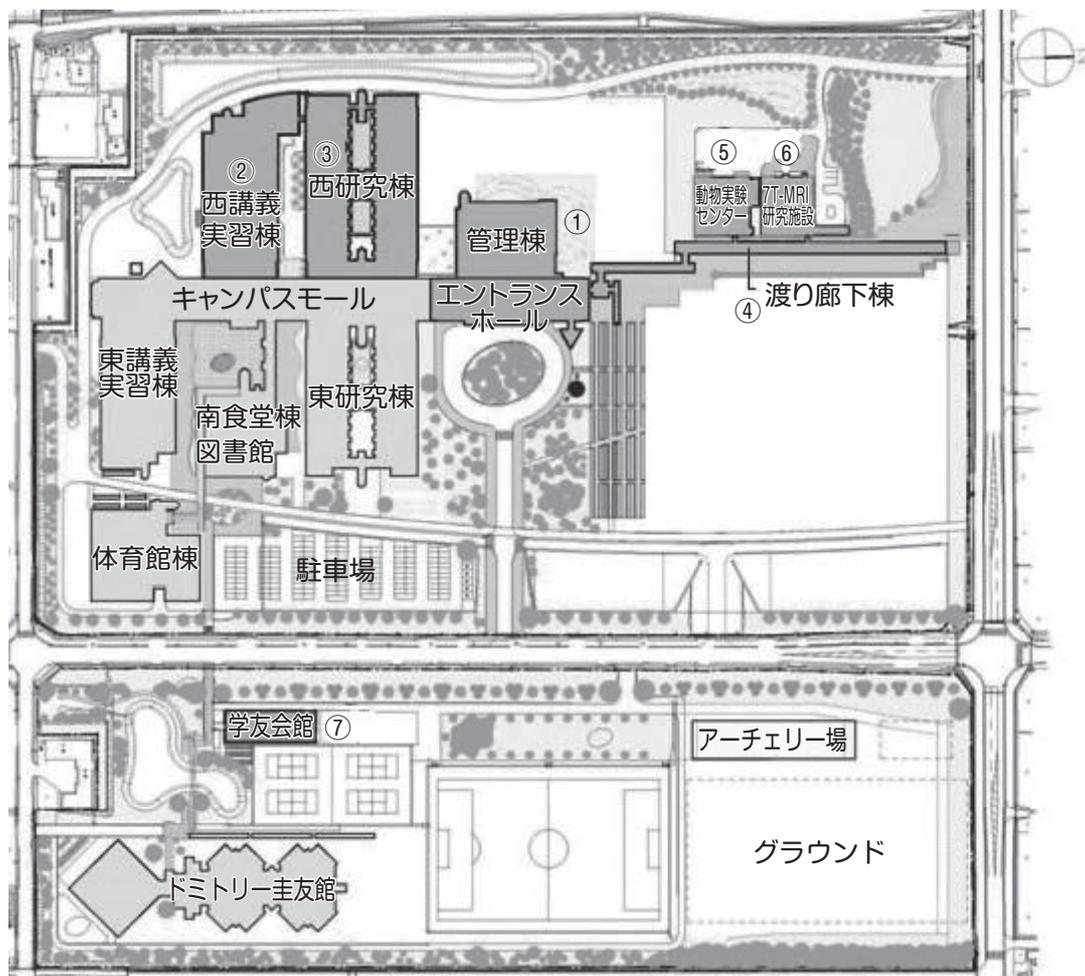


起工祝賀会の様子



総合移転整備計画第二次事業完成予想図

● 建物の配置と施設概要



①管理棟、エントランスホール棟（4階建、延床面積8,900㎡）

既存キャンパスモールを延伸する形でエントランスホールをロータリー前に配置し、大学の顔となる玄関をつくります。正面の分かりやすい位置に配置した管理棟には大学の中核機能や事務機能を収容しています。

②西講義実習棟（4階建、延床面積11,300㎡）

既存東講義実習棟との連携に配慮して近い位置に配置した西講義実習棟は、学生の集中度が高い講義室を1階に、実習室を2、3、4階に配置しています。1階講義室群の中央にはホワイエとしての機能を兼ねたラウンジを配置して、学生間の交流を図っています。

③西研究棟（4階建、延床面積15,300㎡）

既存東研究棟の正面に配置した西研究棟は両棟の連携に配慮しています。1階のキャンパスモール側には、学生および教職員の交流の場であるラウンジと売店、西側には共同研究部門を、2、3、4階には教員室・研究室と共有研究スペースを配置しています。

④渡り廊下棟（平家建、延床面積400㎡）

エントランスホールと動物実験センター・7T-MRI 研究施設を接続する内部廊下です。

⑤動物実験センター棟（3階建、延床面積1,700㎡）

1階に飼育室、2階に実験室を配置。様々な動物実験に対応可能な設備と環境を兼ね備えた総合動物実験施設です。

⑥7T（テスラ）-MRI 研究施設棟（工事中）（2階建、延床面積800㎡）

日本で導入2例目となる7T-MRIを配置する研究施設です。

⑦学友会館棟（4階建、延床面積2,200㎡）

部室25室、音楽練習室を持つ学生の福利厚生施設です。1階にはグラウンド利用者が外部からも利用できるトイレ、シャワー室を配置しています。グラウンドにはアーチェリー場を新設する計画です。

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は2回目の御芳名紹介です。(平成21年10月21日～平成21年12月31日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方については掲載していません。

会社・法人等 (29件)

<3,000,000円>

株式会社アキヤマ (二戸郡)

<1,000,000円>

医療法人梶栄会ゆかわ脳外科 (花巻市)

医療法人北成会鎌田整形外科医院 (北上市)

医療法人葵会もりおか往診クリニック (盛岡市)

株式会社日本眼科医療センター (宮城県仙台市)

キャノンシステムアンドサポート株式会社 (東京都品川区)

医療法人社団高緩会神経科多賀城メンタルクリニック (宮城県多賀城市)

<200,000円>

盛岡ガス株式会社 (盛岡市)

<100,000円>

株式会社大東環境科学 (紫波郡)

東北藤吉工業株式会社 (宮城県仙台市)

<30,000円>

丸乃タイル株式会社 (盛岡市)

<20,000円>

花巻ガス株式会社 (花巻市)

<御芳名のみ記載>

旭自動車工業株式会社 (盛岡市)

三菱電機ビルテクノサービス株式会社東北支社 (宮城県仙台市)

株式会社ユニバース (青森県八戸市)

有限会社内田ランドリー (盛岡市)

医療法人卓清水ヶ丘整形外科 (愛知県知多市)

株式会社メッツ (盛岡市)

有限会社藤原クリーンサービス (盛岡市)

有限会社岩手医大歯学部売店 (盛岡市)

株式会社木津屋本店 (盛岡市)

(受付順、敬称略)

個人 (249件)

<5,000,000円>

阿部 芳則 (父母)

<3,000,000円>

白井 康雄 (医22)

守田 耕太郎 (父母)

<2,000,000円>

齋藤 健一 (一般)

<1,000,000円>

佐藤 雅夫 (医23)

篠田 之秀 (医8)

木村 仁 (父母)

福田 敦 (父母)

大久保 勇 (元職員)

小埜 清 (父母)

熊坂 康二 (医36)

佐藤 寛 (医28)

小原 美穂子 (医17)

藤原 哲郎 (名誉教授)

芳沢 正幸 (他86)

齋藤 正信 (医24)

<500,000円>

狩野 敦 (他71)

岩田 光男 (父母)

<300,000円>

田代 鼎 (専19)

乙茂内 次男 (元職員)

堀内 健二郎 (専17)

<250,000円>

大泉 早苗 (医11)

<240,000円>

向井田 貞雄 (医8)

<200,000円>

高山 修 (専19)

鈴木 静二 (専20)

渡辺 勲 (一般)

山家 誠 (歯15)

金子 靖典 (医48)

加藤 浩 (医39)

<100,000円>

増戸 尚 (医20)

永田 清 (父母)

岡田 修 (医42)

鈴木 博雄 (医27)

豊田 章宏 (医35)

長崎 昭憲 (歯3)
 亀井 正典 (父母)
 中村 吉伸 (父母)
 根本 致知 (医2)
 照井 孝 (父母)
 佐藤 玄徳 (父母)
 村上 晶彦 (医28)
 村上 晶子 (歯13)
 石川 洋子 (医18)
 吉田 晃大 (在学生)
 佐々木 隆夫 (役員)
 林 政俊 (歯4)
 高橋 重一 (父母)
 宮 孝志 (父母)
 小林 正明 (父母)
 辻本 太平 (父母)
 鈴木 憲一 (医19)
 関口 澄雄 (専17)
 山本 晶子 (父母)
 椎野 泰明 (医20)
 椎野 萬里子 (医20)
 渡辺 麟也 (医11)
 大久保 千津子 (歯35)
 石川 富士郎 (名誉教授)
 辛 寿全 (医58)
 鈴木 静雄 (医1)
 会田 則夫 (歯14)
 稲垣 法之 (父母)
 塚原 恵子 (医55)
 太田 広美 (歯23)
 石黒 克司 (一般)
 西郡 秀夫 (教職員)
 田口 圭樹 (医28)
 伊藤 光 (父母)
 燕 軍 (教職員)
 石田 勲 (医47)
 保坂 東美雄 (父母)
 出羽 厚二 (教職員)
 加賀 元宗 (医51)
 橋本 順吉 (医13)
 立花 成勝 (元職員)
 藤田 崇 (医5)
 伊東 宗行 (医11)
 佐藤 慎一郎 (医42)
 熊谷 謙一 (教職員)
 名取 泰博 (教職員)
 山邊 忠厚 (医16)
 <60,000円>
 石橋 薫 (歯7)

<50,000円>
 太田 富之 (歯23)
 宮崎 隆夫 (元職員)
 日下 尚志 (父母)
 藤井 仁志 (医57)
 <30,000円>
 菊地 孝哉 (父母)
 <20,000円>
 江面 祐幸 (医6)
 <11,888円>
 浦田 静子 (教職員)
 <10,000円>
 田中 敏勝 (一般)
 郷 仁 (医34)
 原 一正 (医3)
 山下 真輝 (一般)
 <御芳名のみ掲載>
 加藤 勲 (医6)
 八嶋 信浩 (医36)
 内記 恵 (歯10)
 坂本 吉朗 (専15)
 山口 智 (医36)
 張簡 俊義 (医32)
 鎌田 マキ (元職員)
 斎藤 美智子 (医6)
 佐々木 太門 (医15)
 武井 紀夫 (父母)
 加藤 秀逸 (父母)
 三浦 孝一 (専17)
 小野 孝喜 (父母)
 黒木 瑞雄 (父母)
 齋藤 恭夫 (父母)
 橋浦 礼二郎 (歯8)
 矢羽々 努 (一般)
 深瀬 昌洋 (父母)
 荒川 謙二 (医31)
 高橋 昌平 (父母)
 星 美智子 (医12)
 小関 正剛 (一般)
 倉田 英生 (歯18)
 阿部 邦彦 (医27)
 岡本 英男 (専18)
 原田 博基 (医58)
 中館 一郎 (医30)
 高橋 英樹 (父母)
 金子 博純 (医30)
 根本 厚子 (医30)
 遠野 久夫 (医8)
 遠野 久幸 (医53)

水野 昌宣 (教職員)
 三宅 純 (医25)
 小澤 正人 (医13)
 山口 亮子 (父母)
 白倉 義博 (医38)
 太田 純基 (父母)
 林 博俊 (父母)
 大橋 綾子 (教職員)
 吉村 篤 (父母)
 佐藤 衛 (教職員)
 佐藤 方信 (名誉教授)
 森 敏郎 (医27)
 高橋 秀明 (元職員)
 田村 豊一 (医21)
 照井 カズ (医14)
 千葉 郁樹 (専11)
 奈倉 信寛 (父母)
 落合 芳郎 (歯25)
 磯島 修 (父母)
 和田 利彦 (医30)
 菱沢 亨 (歯39)
 田川 不知夫 (医27)
 山越 隆行 (父母)
 戸塚 盛雄 (名誉教授)
 大方 俊樹 (医27)
 小野寺 健一 (医25)
 鈴木 智恵子 (父母)
 我妻 義則 (医3)
 水野 圭司 (父母)
 前田 正知 (教職員)
 藤島 幹彦 (他86)
 大淵 宏道 (医18)
 柳下 隆英 (父母)
 山崎 一春 (教職員)
 川村 繁美 (医28)

二井 将光 (役員)
 白岩 道夫 (医8)
 小熊 秀佳 (父母)
 米谷 則美 (医30)
 佐藤 敏衛 (医12)
 遠藤 厚 (教職員)
 石橋 寛二 (教職員)
 高橋 俊雄 (教職員)
 佐藤 隆 (教職員)
 遠藤 祐一 (教職員)
 浅古 和弘 (医23)
 浅見 豊房 (父母)
 安齋 晴夫 (父母)
 佐藤 滋彰 (医30)
 鈴木 徹 (医44)
 太田 稔 (名誉教授)
 齋藤 紘 (医18)
 小野 美知子 (教職員)
 鈴木 一幸 (役員)
 鎌滝 章央 (教職員)
 増田 友之 (教職員)
 照井 良彦 (医8)
 齊藤 チエ子 (元職員)
 田中 光雄 (父母)
 坪内 平吉 (父母)
 荒木 信 (教職員)
 清野 幸男 (教職員)
 石川 和克 (医23)
 長谷川 行洋 (医9)
 村上 真子 (他87)
 吉田 正孝 (歯1)
 栗田 優男 (歯4)
 (受付順、敬称略)

これまでの募金累計額

区分	申込件数	募金金額(円)
圭 陵 会	218	92,335,000
在 学 生 ご 父 母	110	27,240,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	16	11,110,000
教 職 員	43	4,411,888
在 学 生	1	100,000
一 般	41	38,590,000
合 計	429	173,786,888

(平成21年12月31日現在)

本学名誉教授 今泉 亀撤 先生の逝去



本学名誉教授の今泉亀撤殿（享年102）におかれましては、平成21年12月29日（火）午後9時23分に福島県郡山市の病院において逝去されました。

先生は、昭和11年3月に東北帝国大学医学部を卒業後、昭和12年東北帝国大学助手に任用、昭和15年同助教授を経て、昭和24年6月に本学医学部眼科学講座教授に就任、昭和50年4月に名誉教授の称号が授与されました。

また、先生は本学教授に就任した昭和24年に国内初の角膜移植術に成功。昭和31年には本学に日本初の眼球銀行を設立し、日本の角膜移植制度の確立とアイバンク創設の基礎を築いた世界的権威で、人道的立場に立ったその功績は甚大なものでありました。この他、トラコーマに関する研究や網膜の電気生理学的研究、八戸赤十字病院の再建にもご尽力されました。昭和53年には文部省から教育功労者表彰、昭和54年には勲三等瑞宝章の荣誉に輝かれました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

本学名誉教授 吉田 昌男 先生の逝去



本学名誉教授の吉田昌男殿（享年84）におかれましては、平成22年1月3日午後9時18分に盛岡繋温泉病院において逝去されました。

先生は、昭和23年3月に岩手医学専門学校を卒業後、岩手県立盛岡病院等での勤務を経て、昭和35年3月本学医学部細菌学講座助手に任用されました。昭和36年6月同講師に昇任、昭和41年6月同助教授を経て、昭和51年2月同教授に就任、平成6年4月に名誉教授の称号が授与されました。

また、昭和54年2月から平成9年2月まで理事として、昭和54年4月から平成20年6月まで評議員として本法人の発展に多大なる貢献をされました。

細菌学（医学微生物学）の分野においては、細菌毒素エンドトキシンについて敗血症性ショックの治療法を案出する上で重要な知見や因子を発見し、医学研究・教育の進歩に貢献され、平成17年に瑞宝小綬章を受章されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

確定申告・還付申告のための税務相談のお知らせ

平成21年分の所得にかかる確定申告・還付申告のための税務相談会を下記のとおり開催します。

1. 相談員 税務担当顧問 田中 洋志 税理士
2. 日時
3月1日（月） 9：30～11：30
3月2日（火） 9：30～11：30
3月3日（水） 9：30～11：30
3月4日（木） 13：45～16：00
3月5日（金） 13：45～16：00
3月9日（火） 13：45～16：00
3月10日（水） 13：45～16：00
3月11日（木） 9：30～11：30
13：45～16：00

3. 場所 木の花会館3階 第1会議室
4. 連絡先 企画課（内）7022・7023
経理課（内）3214・3215

- 申告書は、企画課および経理課に用意しています。
- 申告書は、各自で記入くださるようお願いいたします。作成にあたっては、手引きや昨年の申告書の写しを参考にしてください。また、国税庁ホームページより申告書の作成ができますのでご利用ください。
- 相談の際は、添付書類、印鑑等も忘れずにお持ちください。
- 相談員1名で対応するため、希望する時間帯に相談が受けられない場合もあります。あらかじめご了承ください。

省エネ推進委員会だより

今回は、地球温暖化がもたらす健康への影響についてご紹介します。

健康への影響は、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告では直接的な影響と間接的な影響が懸念されるとあります。

－温暖化により想定される直接的な影響－

異常気象（熱波、暴風雨、洪水、干ばつ、台風の頻発・強化）による影響

- ①死亡や負傷、疾病（熱中症など）
- ②家屋損失、移動移住、飲料水の汚染、食料の不足、感染症の増大
- ③保健衛生サービス施設への被害（病院の損壊など）

－温暖化により想定される間接的な影響－

気候の変化（雨量の増加、気温の変化）による影響

- ①今までは生息していなかった感染症媒介動物の生息、活動の拡大
- ②水、食物を介する伝染性媒体の拡大
- ③公害の助長（光化学スモッグの増加）

地球温暖化は、異常気象がもたらす被害や気候の変化による感染症の拡大など、私達の生活に様々な影響を及ぼす恐れのある環境問題です。

今現在、温暖化によって生じる影響についての詳細までは解っていないようですが、はっきりと解明した時点ではもう手遅れになっているかもしれません。私達が今出来ることを行い、これ以上温暖化が進行しないようにしていかねばならないのではないのでしょうか。



【干ばつ】



【感染症媒介動物】

学 事 案 内

<最終講義>

平成22年3月31日付をもって4名の教授が定年退職（選定年を含む）を迎えられることになりました。

最終講義は下記の日程により行われますのでお知らせいたします。

記

日時：平成22年3月1日(月) 午後1時30分から

会場：本学講堂（歯学部4階）

◇野坂 洋一郎

歯学部口腔機能構造学講座（口腔解剖学分野）

時間：午後1時30分～午後2時10分

演題：「診断・治療に直結する口腔領域の微小循環」

◇久保田 稔

歯学部口腔機能保存学講座（歯内療法学分野）・

総合歯科学講座（保存修復学分野）

時間：午後2時15分～午後2時55分

演題：「外傷歯の保存治療」

◇荒木 吉馬

歯学部口腔病因病態制御学講座（歯科医療工学分野）

時間：午後3時～午後3時40分

演題：「歯科理工学の基本と考え方」

◇井上 洋西

医学部内科学講座（呼吸器・アレルギー・膠原病内科学分野）

時間：午後3時45分～午後4時20分

演題：「肺がんの診断・治療の進歩、医療安全と医師の人権」

<平成21年度卒業式>

●岩手医科大学

医学部、歯学部、大学院医学研究科・歯学研究科

日時：平成22年3月11日(木) 午前10時

場所：岩手県民会館大ホール

●岩手医科大学歯科技工専門学校

日時：平成22年3月6日(土) 午前11時

場所：本学講堂（歯学部4階）

●岩手医科大学歯科衛生専門学校

日時：平成22年3月12日(金) 午前10時

場所：講堂（同校4階）

<平成22年度入学式>

●岩手医科大学

医学部、歯学部、薬学部、大学院医学研究科・歯学研究科

日時：平成22年4月9日(金) 午前10時

場所：岩手県民会館大ホール

●岩手医科大学歯科技工専門学校

●岩手医科大学歯科衛生専門学校

日時：平成22年4月3日(土) 午前10時

場所：本学講堂（歯学部4階）

※歯科技工専門学校と歯科衛生専門学校の入学式は合同開催です。

●平成21年度学友会クラブ活動報告会が行われる



学友会役員に賞状を手渡す赤坂学生部長

見事団体総合優勝を果たしたゴルフ部らに賞状が授与されました。

平成21年12月7日(月)午後5時から歯学部4階講堂において、平成21年度学友会クラブ活動報告会が行われ、小川学長をはじめ、各クラブの部長や学生が出席しました。

この報告会は、各クラブの活動状況や、本学学生が参加した東日本医科学学生総合体育大会、全日本歯科学学生総合体育大会、全日本薬学生総合体育大会などでの成績を報告する場として毎年行われているもので、総務局、体育局、文化局、広報局の各代表者から、今年度の活動報告と来年度の行事予定や抱負が述べられました。

続いて、学友会役員や特に成績が優秀であった団体・個人に対する表彰があり、全日本歯科学学生総合体育大会で

●「岩手ホスピスの会」様から手作りタオル帽子50個が寄贈される

平成21年12月18日(金)、がん患者さんをサポートする盛岡市のボランティア団体「岩手ホスピスの会(川守田裕司代表)」様から、抗がん剤治療の副作用が原因で脱毛症に悩む患者さんのために、手作りタオル帽子50個が本学附属病院へ寄贈され(右写真)、藤岡知昭副院長から感謝状とこれまでタオル帽子を受け取った患者さんからのメッセージカードが贈呈されました。

タオル帽子は、一つひとつが個性的なデザインであり実用性に優れているため、当院における闘病中の患者さんを励ますものとして、大いに役立てられています。

ここに「岩手ホスピスの会」様には、心から御礼申し上げます。



タオル帽子を受け取る藤岡副院長

●平成21年度高大連携ウインターセッションが開催される



歯学部実習：歯の性質を調べる－脱灰性－

今年度は、3学部合わせて65名の県内高校生が受講し、医学部「脳を知る」、歯学部「歯の性質を調べよう」、薬学部「薬学部で学ぶこと」をテーマの下に、講義と実習を体験しました。

最終日には、各学部長より受講生一人ひとりに修了証書が手渡されました。

県内5大学(本学、岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学)と岩手県教育委員会が主催するウインターセッションが平成21年12月25日(金)から2日間にわたって開催されました。

この催しは、高校生が大学に触れる機会を広く提供することで進路意識の高揚と学力の向上につながると同時に、高等学校と大学との連携や接続を円滑化して魅力ある大学作りを図る目的で平成15年から行われています。



修了証書を手渡す鈴木医学部長

●平成22年新年祝賀会が行われる



大堀理事長

平成22年の新年祝賀式が1月4日(月)午後4時から教職員約200名の出席のもと、創立60周年記念館8階研修室で行われました。

祝賀式では、大堀理事長から年頭にあたりご挨拶があり、「誰かがやるのを待つのではなく、自分でどうしたらいいか考え実行してもらいたい」と述べられました。また、乾杯に先立ち小川学長より、「今年は勝負の年。みなさんで魂を入れて大学を機能させていきましょう」とご挨拶があり、出席した教職員のみなさんは真剣な眼差しで聞き入っていました。



小川学長

●医学部入学定員125名に増員される

本学では、平成21年7月の「経済財政改革の基本方針2009」に基づき、医学部の入学定員を15名増員することで文部科学省に認可申請を行っていたところですが、この度、平成21年12月24日付で認可されました。

これにより、本学医学部の入学定員は125名となり、平成22年度入試から一般入学試験の募集定員を、これまでの75名から85名に変更して試験を実施します。

また、平成22年度における歯学部募集定員を10名減の70名とするとともに、医学部入学定員に5名を振替え、歯学部卒業者を対象とする医学部学士編入学制度を設けることを通じて、口腔領域にも精通した医師の養成を目指します。

●平成22年度入学試験が実施される

平成22年度岩手医科大学の入学試験は、平成21年11月14日(土)に医学部・歯学部・薬学部推薦入学試験、平成22年1月20日(水)に医学部一般一次試験、1月29日(金)に歯学部一般前期試験・薬学部一般前期試験、2月3日(水)に医学部一般二次試験が行われました。志願状況は、医学部一般が前年度比143名増の2,229名(倍率26.2倍)、歯学部一般前期が29名減の100名(倍率4倍)、薬学部一般前期が23名減の182名(倍率2.4倍)となりました。

なお、3月5日(金)には歯学部一般後期試験・薬学部一般後期試験が行われます。

●修正大血管転移症に対する国内初の新修復手術を成功

本学附属病院循環器医療センター(岡林均センター長:写真右端)循環器医療チームは平成22年1月19日(火)に記者会見を開き、先天性心疾患の中でも最も複雑とされる「修正大血管転位症」に対して、国内初の成功例となる「二階堂法を用いたダブルスイッチ手術」を成功させたと発表しました。

修正大血管転位症は、左心室と右心室の解剖学的な位置が入れ替わるという先天性心疾患で、頻度は全先天性心疾患の1%程度といわれています。患者さんは7歳の男児。手術は、昨年12月1日に約9時間をかけて行われ、大動脈を大動脈弁ごと右心室から切り取り、本来の左心室側につけ直すという二階堂法を用いた手術を行いました。この手術の成功は、2008年に国内で2番目(世界では7番目)に導入した「320列CT」により、術前に3次元で構築された詳細な心臓の解剖学的情報が得られたことが大きく寄与しました。

執刀した心臓血管外科学講座の猪飼秋夫准教授は「今回の手術の成功は、今後複雑な先天性心疾患を有する患者さんにとって、より安全で、かつ確実に新たな治療を受けて頂くことに貢献するものと考えています」と述べられました。



会見をする猪飼准教授(右から二人目)

はじめに

私は、平成20年に手術看護認定看護師の資格を取得しました。手術部の認定看護師としてあらゆる診療科の術式を把握したうえで、周手術期の患者さんのアセスメントを行い、安全で安楽な手術看護が提供できるように、実践・指導の役割を担っています。

院内活動および私のモットー



普段の外回りも、モットーを忘れずに実践

本院における平成20年度の年間総手術件数は7,961件でした。17の診療科が手術に携わっており、年齢は新生児から高齢者まで幅広く、日々進歩する手術に伴い、最先端の手術が多く行われています。この環境の中で私がモットーにしていることは、“手術を受ける患者さん一人ひとりを全体的にとらえ、身体的にも精神的にも安全で安楽に手術が受けられるよう援助を行うこと”です。特に全身麻酔で手術を受ける場合は、術前訪問で得た情報などから、自分から訴えることができない患者さんの代弁者となり、患者さんに寄り添った看護が提供できるようにしています。現在、術前・術後訪問系のメンバーの一員であり、患者さんの満足度が高まるような看護を実践するため、術前訪問での情報収集の方法を検討することなども認定看護師の活動として進めています。指導面では、特に新人看護師や手術看護経験の少ないスタッフに対して、手術を受ける患者さんを身体的、精神的側面から捉えて、より安心して手術が受けられる看護ができるよう、日々の実践のなかで指導を行っています。昨年9月には認定看護師主催による研修会で、さらに手術看護に興味を持ってもらいたいという願いをこめて、病棟看護師を対象に術後合併症とその看護について講義を行いました。



新人看護師を対象に実技をまじえた体位固定の勉強会を開催

院外活動

院外活動は、県内・県外問わず、手術看護情報交換会などの講師や手術看護に関する雑誌への執筆を主に行っています。東北地区の手術看護認定看護師が年々増加し、現在8名になりました。それに伴い、今後の学会や研修会において、認定看護師による勉強会やその具体的内容などを現在考案中です。

おわりに

手術看護認定看護師としての活動は試行錯誤で行っていますが、一つひとつ実績を重ねていきたいと考えています。課題としては、手術看護を広く皆様に知っていただくためのPR、病棟や他部門との連携を図り、看護の質の向上に努めたいと考えておりますので、ご指導をよろしく願いいたします。

投書箱から

院内に設置している投書箱に患者さんからお手紙が寄せられましたのでご紹介します。(なお、紙面の都合により文面を一部省略しました。)

先進的医療で治療を受け大変光栄に思います。テレビ放映での実績をこの体で体感できた事、感謝の一言です。福祉、医療業務に関わってきた行政マンとして、またこれから三障害施設に関わる者として、非常に役立ちました。入院患者の一日は長いもので、早期発見・治療で、これ程早く元気になれるとは考えてもいませんでした。

今後は、自分の体験を基に、前進する気持ちを忘れず、早期治療をPRしていきたいと考えています。なお、今後の医療研究で役立つのであれば、自分の臓器提供も考えていきたいと思っております。

先生方の対応の仕方、頭が下がります。本当にありがとうございました。(外科病棟に入院された患者さんから)



職場めぐり

No.60



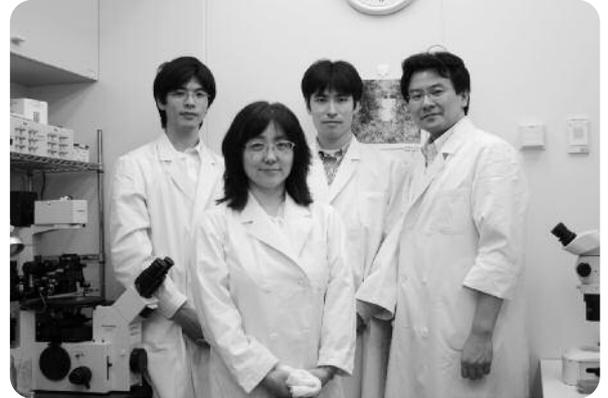
生体防御学講座

生体防御学講座は、平成19年4月に薬学部の発足とともに、大橋、白石、丹治の3名でスタートしました。前年度に大橋が出産する際には、多くの皆様のご理解とご支援を賜り、しばらく産休・育休をいただいております。今年度無事復帰し、新たに錦織も加わり、現在計4名で力を合わせて教育・研究に励んでおります。

当講座では、現在は線虫 *C. elegans* を用いたオルガネラ機能や生体防御の基礎研究を行っております。また、教育に関しましては、1年次の薬学入門（生命倫理）、2年次以降の専門科目講義（生化学、生体防御学、医薬モデル生物学）や微生物学実習などを担当しております。これらを通じて、研究マインドをもった信頼される薬剤師や

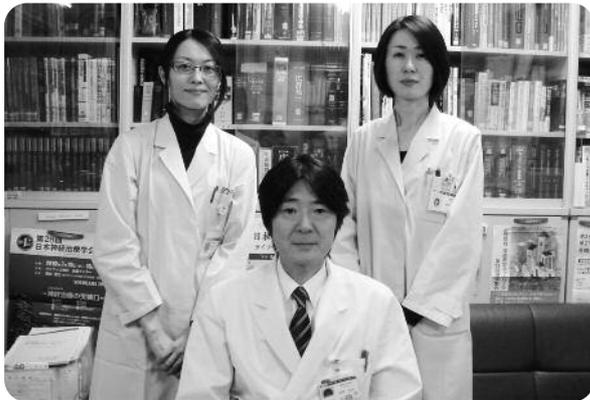
薬学出身者の養成を目指しております。ご興味のある方は是非一度お立ち寄りください。

（教授 大橋 綾子）



臨床心理室

臨床心理室は、以前あった「心理言語診療室」から言語部門に関する機能を「言語聴覚室」に移し、平成19年4月に設置されました。現在は、神



経精神科学講座酒井明夫教授のもと、臨床心理士2名が所属し、主に精神科外来内にある心理検査室で、知能検査、性格検査をはじめとする各種心理検査や心理面接等を行っております。精神科、小児科など各科の医師の依頼に対し、患者さんの様々な側面からの理解と適切な治療法の選択や予後の予測に役立つように心がけております。

また、脳ドックの高次脳機能に関する評価や、緩和ケアチームの一員としてのがん患者さんへの心理的ケア、地域住民への精神保健の啓発活動なども行っております。心理的なサポートへのニーズは年齢や疾患を超えて高まっており、専門的な技術の向上とより質の高い援助の提供を目指して取り組んでおります。（臨床心理士 久保 千尋）

看護部（中病棟9階）

中病棟9階は病床数76床の消化器肝臓内科単科の病棟です。急性期から慢性期・終末期と様々な病態に加え、患者さんの高齢化や種々の疾病をもちながらの検査や治療も多く大変多忙な病棟です。そのため、毎日のカンファレンスで情報の共有や意見交換をし、患者さんに今必要な援助は何かをチームで検討しながら、患者さん中心の視点での援助を提供できるよう心がけています。消化器疾患は食生活や生活習慣などと関係が深く、生活様式・食生活・社会での役割などを把握し援助することが重要になります。また、慢性肝疾患患者さんの多くは、病状の悪化に伴い入退院を繰り返しており、悪化要因を避ける生活を送ることが大切です。今年度から、食事や飲酒・便通・清潔・内服などのセルフケア行動の確立と患者さんのQOL向上を目指し、毎週木曜日に肝臓病教室を開催しています。医師・看護師・栄養士・薬剤師とともに各職種の専門性を活かし、患者さんが

参加したくなるような運営を心がけています。若いスタッフが多く活気にあふれている病棟です。意見交換しながらお互い成長し合えるように、より良い病棟を目指し日々取り組んでいます。

（主任看護師 相馬 祐子）



毎日がアウトドア ～自転車を愛し30年～

薬学部薬剤治療学講座 助手 鏡 圭介

私は出不精である。しかしなぜかこのタイトル……。決して虚偽の事実ではない。その理由は、通勤のために毎日自転車で大自然の中を滑走と駆け巡っているからである。

住む家を決めるときは必ず通勤・通学先から数キロ距離を置くようにしている。勿論自転車で通うためである。自転車で通う第一の理由は運動のためである。普段全く運動をしない私にとって自転車は健康のために欠かせない



写真1 札幌・大通公園（札幌市公園緑化協会 HP より）

相棒である。携帯電話、パソコンの次に来るぐらいの必需品である。そして第二の理由が（第一かもしれないが……）自然の中を毎日駆け巡りたいからである。札幌では大通公園（写真1）、東京・八王子では高尾山を背に

多摩川支流の浅川沿い（写真2）を心癒されながら走っていた。



写真2 東京・八王子浅川（2008年10月撮影）

今回、縁があり本学矢巾キャンパスに赴任が決まった時も、地図を片手に自転車で通うルートを綿密に確認した。地図が正しければ南部富士の異名をもつ岩手山を背に田園風景を満喫できると考え、本学より北に6キロ離れた津志田に住むことを決めた（盛岡中心部に住みたかったが、さすがに10キロは辛い……）。岩手に赴き実際にルートを走ってみる。想像通りの、いや想像以上の絶景である。田園は季節ごとにその景観を変え、岩手山も毎日その顔を変える（どれほど絶景かは盛岡方面から矢巾キャンパスに通われている読者の方々には説明不要であろう）。天気の良い日は風が気持ち良い。時間に余裕があるときは、自転車を止め暫し絶景に浸る。これは自転車ならではの醍醐味である。

しかし、この原稿を執筆している現在は12月初旬。さすがに冬の香りが漂ってきた。北海道育ちの私にとって寒さは平気だが、路面が凍結すると自転車は使えない。相棒との暫しの別れなのか？暖冬であることをただ切に願ひ、締めくくらせて頂く。

－15℃の氷の上で

先端医療研究センター 超高磁場 MRI 診断・病態研究部門 助教 阿久津 仁美

関東から盛岡に移り住んで7年が過ぎました。今ではすっかり盛岡生活も板につき、美しい自然を楽しんで暮らしています。関東にいる家族・親戚・友人たちは、「岩手は雪が多いでしょ？冬はものすごく寒いでしょ？」と、関東とはひと味違う冬を想像して心配してくれます。しかし、岩手の四季でいちばん美しく、見応えがあると私を感じるのがまさに冬。北の地にいるなら、やはり厳寒の冬を楽しむのが醍醐味だと思うのです。

盛岡に来て間もない頃、温泉や紅葉、スキー、山菜採りなど、季節ごとの様々な楽しみを体験しました。中でも毎年恒例になるほど気に入ったものが、岩洞湖でのワカサギ釣りです。最初に体験したのは、まだ氷の張っていない湖面に浮かぶドーム船でのワカサギ釣り。これはビニールハウスがイカダに乗っているようなもので、床板に丸い穴が等間隔で開いています。常連さんも初めての人も、ストーブで暖まりながら和気藹々と、思い思い

のスタイルで釣りを楽めます。アタリが連発してリールの“カリカリカリ……”という音を頻繁に立てる人には、どこからともなく「すごいなあ、何匹釣ってるんだろ？」と賞賛の声がかかり、知らない人からも釣果の入ったバケツを覗かれたりして……。ちょっと誇らしくなる瞬間です。

現在は岩洞湖水上市釣りが我が家の主流ですが、こちらもまた楽しいものです。極寒の氷上にテントを張り、ときには猛吹雪にテントを飛ばされそうになりながらも、微かなアタリを見逃さないように息をひそめて竿先を見つめ、自然と対峙するひととき。そのあとにはもちろん、家でおいしい自然の恵みをいただきます（ワカサギの天ぷら）。

地元の方でも「岩洞湖のワカサギ釣り？やったことないなあ」という方が多いような気がします。機会があったら一度いかがですか？意外とハマりますよ。



岩洞湖にて

表彰の栄誉

江刺家 邦雄さん・神原 芳行さん 文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労）を受賞

本学附属病院中央放射線部副技師長の神原芳行さんと主任診療放射線技師の江刺家邦雄さんは、平成21年11月25日(火)に文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労）を受賞しました。

この賞は国立、公立及び私学の大学における医学又は歯学に関する教育研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労のあった者を表彰することにより、関係職員の士気を高揚し、医学又は歯学教育の充実向上を図ることを目的として、昭和49年度から実施されています。

神原さんは昭和52年4月に、江刺家さんは昭和48年4月にそれぞれ採用され、本学の発展に寄与されています。



(左)江刺家 邦雄さん (右)神原 芳行さん

嶽間澤 博さん 岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞



本学附属病院中央放射線部技師長の嶽間澤博さんは、長年にわたり保健医療に関する団体の運営に尽力し、その功績が顕著であったとして、平成22年1月14日(木)に岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました。

嶽間澤さんは、高度先進医療を使命とする大学病院の中央放射線部門において、最新技術の修得と後進の指導に尽力し、先進的な診断技術の研究・確立と発展に大きく貢献されました。また、日本放射線技術学会の要職を歴任し、現在も岩手県放射線技師会相談役として県内における診療放射線技師の知識の啓蒙と技術の向上に力を注がれています。

理事会報告

11月定例（11月30日開催）

1. 歯科衛生専門学校・歯科技工専門学校の統合化について
収支改善を図るための組織的な統合化。以下概略。
＜統合化の概略＞
名称：岩手医科大学医療専門学校
設置課程：歯科衛生専門課程 歯科衛生学科（3年課程）
入学定員40名（収容定員120名）
歯科技工専門課程 歯科技工学科（2年課程）
入学定員25名（収容定員50名）
所在地：歯科衛生専門学校の現在地（盛岡市上ノ橋町1-12）
（統合予定年月日 平成23年4月1日）
2. 任期付職員に係る規程の一部改正について
＜改正内容＞
 - ・1年毎の毎年度更新とし最長5年とすること
 - ・職員採用の試用期間9カ月については適用から除くこと
（施行年月日 平成22年4月1日）
3. 第二次事業に係る工事業者の選定について
建築工事：清水建設㈱
機械工事：㈱朝日工業社
電気工事：㈱興和電設
4. 内部監査室の設置について
＜設置目的＞
 - ・監査機能を強化
 - ・学校法人全体の経営基盤の整備のため、健全で効率ある経営を図るとともに、業務執行の責任を自ら明らかにする必

要があるため

- ・本法人の業務に関し公益通報者の保護と不正行為等の早期発見と是正を図り、本法人の諸規程に係るコンプライアンス運営を強化するため
（設置年月日 平成22年4月1日）
5. キャリア支援センター（仮称）の設置について
＜設置目的＞
 - ・薬学部卒業生の進路は多岐にわたり就職先の開拓が必要であるため
 - ・就職率や就職先は入学志願者に直結することからキャリアカウンセリング、個別指導を実施する必要があるため
 - ・5年次の長期実務実習で就職活動を4年次後半から5年次前半に前倒しで行うために、各種ガイダンスやセミナー及びインターンシップ等支援事業の一層の充実が必要であるため
 - ・雇用環境が悪化しており情報の迅速な提供と有効な利用が必要であるため
（設置年月日 平成22年4月1日）

12月定例（12月21日開催）

1. 歯科診療科の再編について
歯科医療センターの組織強化及び人的効率化を図ることを目的として、保存科及び補綴科並びに口腔外科の統合を行い、13診療科を10診療科に再編し診療体制を見直すこととした。
（再編年月日 平成22年4月1日）

第70回大学報編集委員会

日 時：平成22年2月10日(水) 午後4時～午後4時50分

出席委員：大堀委員長、山崎、影山、松政、齋野、藤本、小山、佐々木(志)、佐々木(光)、及川、澤村、中島(久)、武藤、野里

欠席委員：寺田、中島(薫)、佐々木(さ)、佐々木(忠)、岩動

— 大学報原稿募集 —

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活発な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、作品（写真、俳句、絵画など）、サークル紹介、また「私たちはこんなことを頑張っている」などのアピールをどしどしお寄せください（原

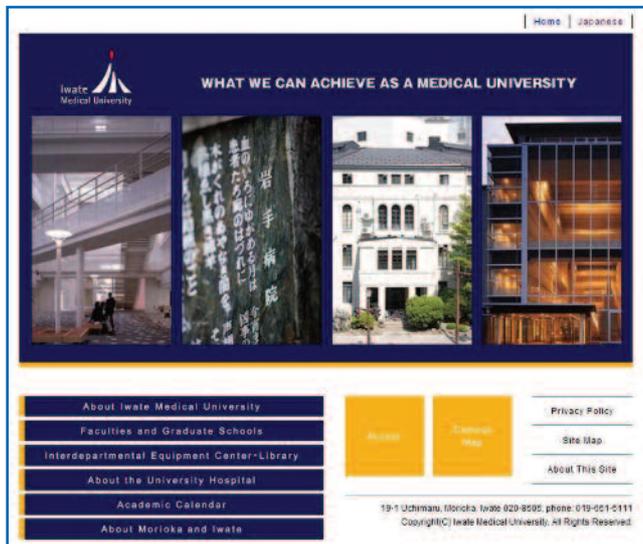
稿字数はご相談ください）。

また、特集してほしいテーマや、各コーナー（「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしております。

連絡先 大学報編集委員会事務局(企画部企画課)
内線7023 kikaku@j.iwate-med.ac.jp

ホームページの新設及びリニューアルのお知らせ

この度、岩手医科大学英語版ホームページ（平成21年12月25日公開：企画課担当）を新設、また岩手医科大学附属病院ホームページ（平成21年12月1日公開：医務課担当）をリニューアルいたしました。
今後も、定期的な更新や見直しを行い、ホームページの充実を図ります。



岩手医科大学英語版ホームページ
<http://www.iwate-med.ac.jp/eng/index.html>



岩手医科大学附属病院ホームページ
<http://www.iwate-med.ac.jp/hospital/index.html>

心肺蘇生法を知っていますか??



AED 設置場所マーク

近年、駅や飛行場、学校や大型ショッピングモール等に AED（自動体外式除細動器）が普及されてきています。しかし、使い方が分からなければ、本当に普及されたことにはなりません。心停止で意識を失ったまま10分間放置すると、救命率は10%を切ると言われています。AED は、音声で指示を出してくれますので「誰でも」使えます。突然の緊急時に、1分1秒でも早く救命活動が行えるよう、心肺蘇生法を確認しておきましょう。

なお、本学には、各附属病院外来・病棟、救急センター等に AED を設置しています。

心肺蘇生法のABC+Dを知ることが救命救急の命です。

- A**...**Airway**
気道確保
- B**...**Breathing**
人工呼吸(省略可能)
- C**...**Circulation**
胸骨圧迫(心臓マッサージ)
- D**...**Defibrillation**
除細動

除細動とは、心臓に電気ショックを与えることで、AED（自動体外式除細動器）という機器を使えば誰にでもできる手当てです。

心臓疾患による突然死は、皆さんで防げます!



～ 学内の胸像めぐり ～

文学と彫刻のまち盛岡には多くの胸像が見受けられますが、皆様は岩手医科大学内丸キャンパスにいくつ胸像があると思われますか？今回調べてみて私たちもびっくりしたのですが実は4つの胸像があります。以下にご紹介いたします。

1. 三田 俊次郎 先生像 (初代理事長・校長)

本学創設者の三田俊次郎先生の胸像は、本学1号館正面玄関にあります。

先生は、文久3年3月生まれ。明治24年東京帝国大学医学部選科修了。明治30年「私立岩手病院」を創設、明治34年には岩手病院を実習場として東北・北海道初の「私立岩手医学校」を設立しました。昭和3年2月、本学の前身「私立岩手医学専門学校」を設立し、初代理事長・校長に就任しました。



2. 杉立 義郎 先生像 (私立岩手病院病院長)

私立岩手病院長杉立義郎先生の胸像は、本学附属病院正面左にあります。東北地方の美術、民族芸能など多岐にわたる分野での調査で活躍した、岩手出身の吉川保正作によるものです。



3. 三田 定則 先生像 (第二代理事長・校長／本学初代学長)

本学初代学長三田定則先生の胸像は、図書館2階正面にあります。

先生は、明治9年1月生まれ。明治34年東京帝国大学医科大学医学科卒業。大正7年東京帝国大学医科大学教授、昭和12年台北帝国大学（現在台湾大学）総長に就任。養父三田俊次郎が創立した「岩手医学専門学校」の第二代理事長・校長となり、大学昇格に尽力されました。「岩手医科大学」に昇格した初代学長。



4. 篠田 糺 先生像 (第五代理事長／本学第四代学長)

本学第四代学長篠田糺先生の胸像は、本学附属病院会計正面にあります。

先生は、明治25年7月生まれ。大正6年東京帝国大学医科大学医学科卒業。昭和12年東京帝国大学助教授、昭和14年東北帝国大学教授、昭和23年東北大学医学部附属病院長及び東北大学評議員を歴任。昭和31年本学第四代学長、昭和32年本法人第五代理事長。



一度全ての胸像をご覧になってはいかがでしょうか？

(編集委員 齋野 朝幸)

● 編集後記

今号から、様々なジャンルを掲載するフリーページが設けられ、第一回目となる今回は「学内の胸像めぐり」を掲載しました。本学の発展に尽力し数々の偉業を成し遂げてこられた諸先生方に敬意を払うと共に、普段何気なく通り過ぎ見過ごしてしまっている、大学職員でなければ目にする事の出来ない貴重な物が大学の中には沢山ありますので、機会があれば紹介していきたいと思えます。

(編集委員 野里 三津子)

岩手医科大学報 第402号

発行年月日 平成22年2月25日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp